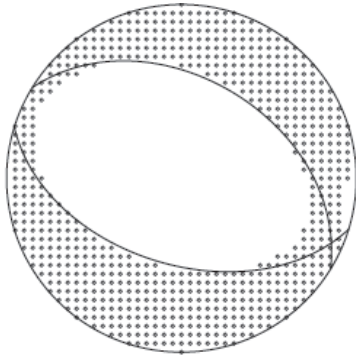


(3) W-phase を用いたメカニズム解析

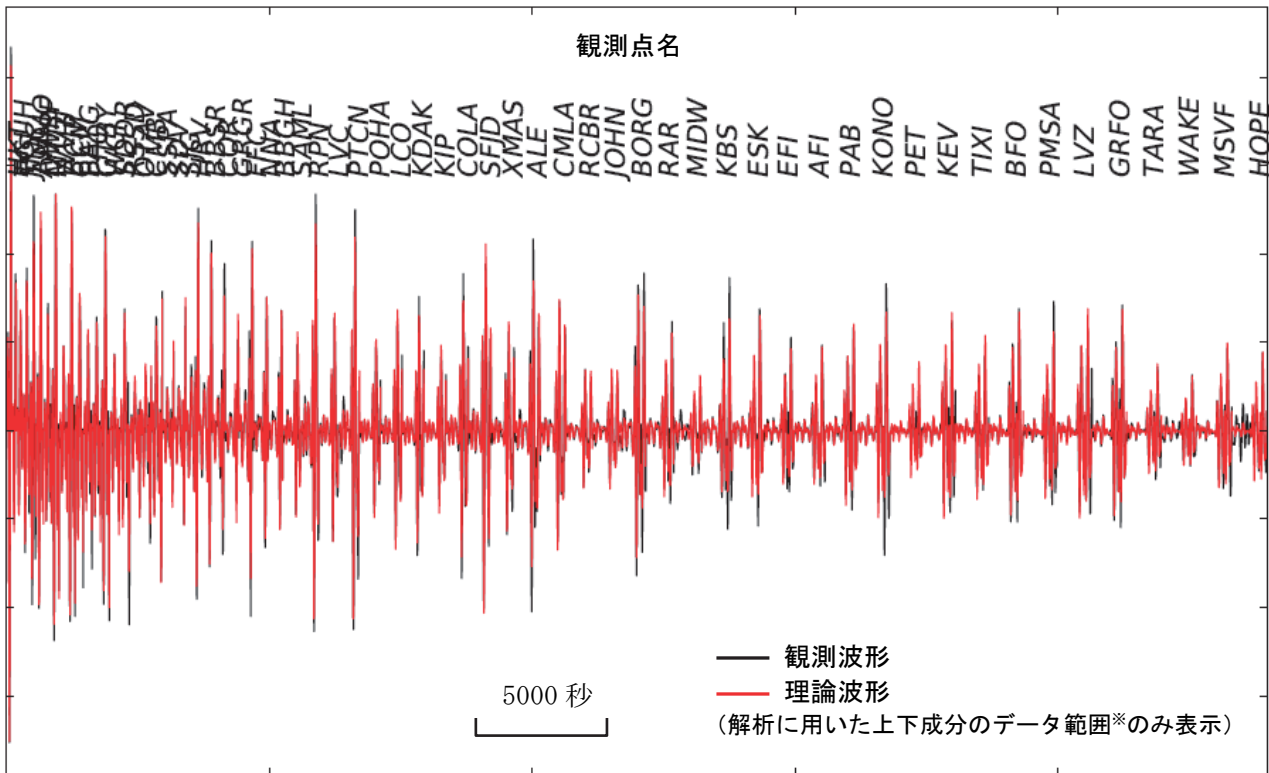


2017 年 9 月 20 日 03 時 14 分（日本時間）にメキシコ中部で発生した地震について W-phase を用いた発震機構解析を行った。発震機構、Mw とともに、Global CMT などの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mw は 7.1 であった。なお、W-phase の解析で求めた震源は N18.7°、W98.4°、深さ 51km となった。

W-phase の解析では、震央距離 10° ~ 90° までの 63 観測点の上下成分、50 観測点の水平成分を用い、100~300 秒のフィルターを使用した。

注) W-phase とは P 波から S 波付近までの長周期の実体波を指す。

Mw	M ₀	断層面解 1 (走向/傾斜/すべり角)	断層面解 2 (走向/傾斜/すべり角)
7.1	6.33 × 10 ¹⁹ Nm	301.5° / 42.0° / -79.2°	107.1° / 48.9° / -99.6°



※解析に用いたデータの範囲は 15 秒 × 震央距離 (度) としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phase に関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データには、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) のデータ管理センター (DMC) より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士及び Rivera 博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。

